



つばき

事務所便り

令和6年2月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

我が国の国際的評価あるいは地位はどのようになっているのだろうか。軍事、経済、総合力で観察する。

●日本の軍事力、米国・ロシア・中国・インド・韓国・英国に続き世界7位… 北朝鮮は36位、

世界各国の軍事力レベルを分析し、発表しているグローバル・ファイヤーパワー (Global Firepower=GFP) が公した2024年世界軍事力ランキングで、日本が7位に入ったこと19日までに分かった。北朝鮮の軍事力は前年よりもダウンし、36位と評価された。

グローバル・ファイヤーパワーが発表した報告書によると、韓国は軍事力評価指数で0.1416点となり、調査対象の145カ国・地域のうち5位を記録したという。前年(6位)に比べワンランク上昇した。グローバル・ファイヤーパワーの軍事力評価指数は「0」に近いほど軍事力が高いことを意味し、▲兵力▲兵器数▲経済力▲戦時動員可能人材▲国防予算など、60項目以上の指標を活用して算出する。



表
シ
ン
ダ
が
る。今
回
ド
イ
ツ
の
G
D
P
が
伸
び
た
の
は、

●日本のGDP、ドイツにぬかれ4位転落？

1月15日にドイツが2023年のGDP統計の暫定値を発表し、これを受けて日本はGDPでドイツに追い抜かれて4位に転落することが事実になったと、マスコミ各社が報じている。

しかし現状を冷静に見れば、むしろ逆で、ドイツ経済より日本経済のほうが、はるかにマシだといえるべきである。今回ドイツのGDPが伸びたのは、

1)ドイツを襲った激しいインフレによってGDPの名目値が大きく膨らんだこと、

2)ユーロ高・円安によって円の相対的な価値がかなり下がったことが大きく影響している。

実際、ドイツ連邦統計局が発表したドイツのGDPの暫定値によれば、2023年の実質GDPは前年比0.3%減であり、G7諸国の中で唯一マイナス成長になっている。ドイツ経済は一方で高インフレに苦しみ、他方でマイナス成長に陥っているわけだが、これはスタグフレーションという、経済的には決して好ましくない状態にあることを意味する。スタグフレーションに苦しんで、実質的な経済成長ができなくなったドイツ経済が、好調であるわけがないのだ。だが、円安・ユーロ高によってGDPはドイツに抜かされることになった。長年にわたる低成長の結果である。現実問題として「Japan as No.1」と言われ、世界の経済大国にもなろうとしていた日本の現状はさみしい限りである。

2022年の名目GDP(IMF統計)

順位	国名	単位：百万US\$
1	米国	25,462,725
2	中国	17,886,331
3	日本	4,237,528
4	ドイツ	4,085,681
5	インド	3,389,689
6	イギリス	3,081,871
7	フランス	2,780,136
8	ロシア	2,244,249
9	カナダ	2,137,939
10	イタリア	2,012,014

2024年世界軍事力ランキングは？

※145カ国・地域を対象に調査、0に近いほど軍事力が高い 単位：点



国別の国防予算項目

で、韓国は447億ドルと評価され、11位を記録した。北朝鮮は国防予算が35億ドルで58位だった。軍事力1位は米国(0.0699)で、

ロシア(0.0702)、中国(0.0706)、インド(0.1023)が後に続いた。6位は英国(0.1443)、7位は日本(0.1601)だ。

●世界の国カランキング、日本は8位

「TIME」や「Newsweek」と並んで米国3大時事週刊誌に挙げられる「U.S. News and World Report」による世界の国カランキングで日本は8位に順位を下げた。

「U.S. News and World Report」によると、このたびマーケティングおよびコミュニケーション専門企業VMLY&Rの系列会社であるBAVグループとペンシルベニア大学ウォートン校が調査し、「世界最高の国カランキング2022」を発表したという。全世界のおよそ1万7000人を対象に、世界85カ国・地域の冒険性・敏しょう性・文化的影響・起業家精神・文化的遺産・移動人口・ビジネスの開放度・国力・生活の質・社会的目的など10の要素の点数を計算して順位を決めるもので、日本はパワー・ランキング(世界の国カランキング)部門で8位を記録した。

Q 2022年世界の国カランキング (Power Rankings)

 米国	GDP	\$23.0 trillion
	人口	331,893,745
	一人当たりGDP	\$69,288
 中国	GDP	\$17.7 trillion
	人口	1,412,360,000
	一人当たりGDP	\$19,338
 ロシア	GDP	\$1.78 trillion
	人口	143,446,060
	一人当たりGDP	\$32,803
 ドイツ	GDP	\$4.22 trillion
	人口	83,129,285
	一人当たりGDP	\$57,928
 英国	GDP	\$3.19 trillion
	人口	67,326,569
	一人当たりGDP	\$49,675
 韓国	GDP	\$1.80 trillion
	人口	51,744,876
	一人当たりGDP	\$46,918
 フランス	GDP	\$2.94 trillion
	人口	67,499,343
	一人当たりGDP	\$50,729
 日本	GDP	\$4.94 trillion
	人口	125,681,593
	一人当たりGDP	\$42,940
 アラブ首長国連邦	GDP	\$359 billion
	人口	9,991,083
	一人当たりGDP	\$66,766
 イスラエル	GDP	\$482 billion
	人口	9,364,000
	一人当たりGDP	\$43,722

資料：BAVグループ&ペンシルベニア大学ウォートン校「世界最高の国カランキング2022」

国力部門1位は米国で、中国、ロシア、ドイツ、英国が2位から5位を占めた。フランスは昨年と同じく7位にランクインした。昨年6位だった日本は2段階順位を下げて8位だった。日本の現状から判断すれば妥当な評価であろう。

国際社会において、全ての国は国際法的に平等ではあるものの、実際のところ、国民・政治・経済・軍事・科学・技術・文化・情報などの能力と影響力は各国ごとに異なっている。ゆえに、ある国のそのような要素を総合的に捉えるとき、それを「国力」として定義することができる。ある国の国際的地位はその国力によって変化し、国力が特に高い国は、国際社会において大国として大きな存在感を示す。

国力の伝統的な指標として、**ジョージタウン大学のレイ・クライン教授**は国力を**軍事力**や**経済力**などが合理的に組み合わさったものであるとして、各種要素を数値化し、次のような方程式を考案した。**国力 = ((基本指標:人口 + 領土) + 経済力 + 軍事力) × (戦略目的 + 国家意思)**

また**コックスとジャコブソン**は国力を GNP、1人当たりの GNP、人口、核戦力、国際的威信に指標化した式を考案した。

国力 = GNP + 一人当たりの GNP + 人口 + 核戦力 + 国際的威信

ただし国力は多くの質的要素も含んでおり、加えて国力は**平時**と**戦時**においても異なり、**国際法**による**軍事力**行使への制限強化、**外交交渉**技術などの流動的な要素もあり、それら全てが数値化されない限り国力の客観的な測定は不可能である。そのためクラインの方程式を見直した国力概念を唱えるものも多い。ただし**ハンス・モーゲンソウ**は国力評価において以下のような指摘をしている。

(1)特定の国民の力を絶対視して相対性を無視すること。

(2)過去に重大な役割にあった要素を永久のものであると考え、その変動を無視すること。

(3)特定の要員を決定的なものであると考え、その他の要因を無視すること。

このように、国力を比較することは難しい。

しかしながら、人口減少に加え、政治資金・裏金問題の議論ばかりしている国会では将来に明るさを見出すことは難しい。

日本の再起は何時、誰がやるのか！